

グローバル・ロボティクス株式ファンド

(1年決算型) / (年2回決算型) / (為替ヘッジあり・1年決算型) / (為替ヘッジあり・年2回決算型)

追加型投信 / 内外 / 株式

Global Robotics Equity Fund

SMBC日興証券でお申込の場合

三井住友銀行仲介口座でお申込の場合
(委託金融商品取引業者・販売会社: SMBC日興証券)

三井住友銀行投資信託口座でお申込の場合

■投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込

■投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込

■投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込

■設定・運用



SMBC日興証券



三井住友銀行

三井住友銀行

アモーヴァ・アセットマネジメント

当ファンドをご検討いただくにあたって

(当ページはSMBC日興証券・三井住友銀行からのお知らせとなります)

当ファンドの特徴と、想定するお客さま

当ファンドは、主として日本を含む世界各国の金融商品取引所に上場されている、ロボティクス関連企業の株式に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざします。特定のテーマにフォーカスした銘柄選定を行なうため、株式市場全体の値動きに比べて、基準価額の値動きが大きく異なることがあります。

従いまして当ファンドは、そのようなリスクを許容し、中長期的な運用をお考えのお客さまを想定した商品設計となっております。

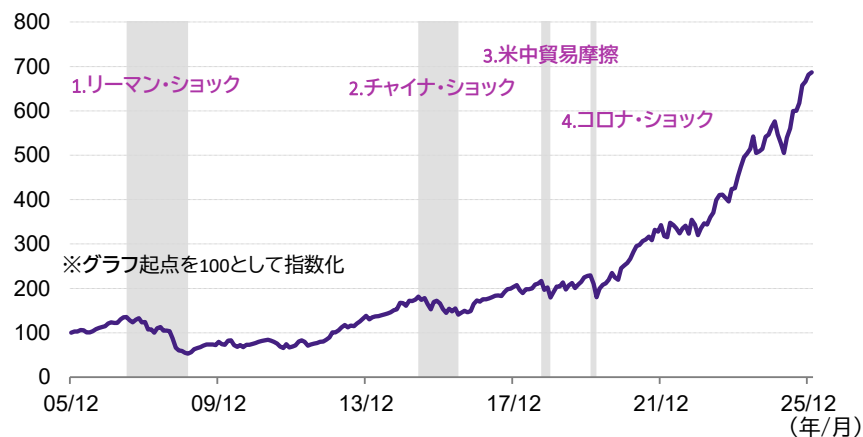
当ファンドにおいて想定されるリスク特性

当ファンドは一般的な株式投資に関するリスクに加え、主にロボティクス関連企業の株式にフォーカスして投資を行なうため、幅広い業種の銘柄に分散投資を行なった場合と比較して特定の業種の投資比率が高くなり、相対的に価格変動が大きくなる可能性があります。

加えて、市場環境によってはロボティクス関連企業の株式のパフォーマンスは株式市場全体に比べて劣後するリスクがあります。

当ファンドのご購入にあたっては、上記のリスク特性をご理解いただき、お客さまご自身の投資目的などとも照らし合わせた上でご検討いただきますよう、お願い申し上げます。

【世界株式の推移】(2005年12月～2026年1月、月次)



【主な下落イベント】

	下落のきっかけ	局面の期間	下落率
1	リーマン・ショック	2007年6月末～2009年2月末	-60.8%
2	チャイナ・ショック	2015年5月末～2016年6月末	-22.5%
3	米中貿易摩擦	2018年9月末～2018年12月末	-17.2%
4	コロナ・ショック	2020年1月末～2020年3月末	-21.4%

※世界株式：MSCIワールド指数(税引後配当込み、米ドルベース)の前営業日の値に当日の為替を適用してアモーヴァ・アセットマネジメントが円換算。

※上記指数は当ファンドのベンチマークではありません。

(信頼できると判断した情報をもとにアモーヴァ・アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

当ファンドのリスク

■ リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様にご帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】【為替変動リスク】【有価証券の貸付などにおけるリスク】

※詳しくは、本資料の「お申込みに際しての留意事項」をご覧ください。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

もはや「課題解決」とどまらない、ロボティクス

高齢化、人口減少、働き方の多様化——

労働力不足という世界的課題に直面する中、その解決策として関心が高まったロボティクス。

この技術は日々驚異的な発展を遂げ、単なる労働の代替手段という枠を超える存在へと進化しています。



ロボティクスは

「感じる」、「考える」、「動かす」の
3つの要素技術を束ねた総称

ロボティクスが
可能にすること

- ① **自動化** 遠隔監視・遠隔操作など人を介さずに動かす技術
- ② **自律化** 人がいなくても自ら判断し、動作・修復する技術

ロボティクスの領域はより広く、より身近に

これまで想像しなかった領域まで広がっているロボティクス。
その活用エリアは、技術革新やAIとの融合などにより、
当初想定されていた工場などでの活動領域を超え、
あらゆる産業や生活のシーンで人々を支えるまでに、広範かつ急速に、拡大しています。
社会に不可欠なものとして、人々と共存する存在になろうとしています。



AIロボット



自動運転



ドローン配送



物流の自動化



手術ロボット



リモート授業



サービスロボット



FA(工場自動化)

※写真はイメージです。

【本資料の「お申込みに際しての留意事項」を必ずご覧ください。】

加速度的な成長が期待されるロボティクス

- 「感じる」「考える」「動かす」の3つの要素技術の総称であるロボティクスは、世界的な労働力不足や賃金上昇という持続的課題の解決策として期待されており、技術革新など供給面での大きな後押しを受けて、力強い成長が期待されています。
- ロボティクスの成長が後押しされた背景として、製造業の国際競争力向上に向け、第4次産業革命(Industry4.0)として各国でロボット普及支援策が打ち出されたことなどが挙げられます。加えて近年では、急速な技術進化などを受けて自動化可能領域が幅広い分野へ広がる中、ロボティクスは、製造業のみならず、新たな市場を切り開く成長産業として注目が集まっています。

増え続ける需要と加速する供給変化が、ロボティクスの領域を広げる

<ロボティクス需要を支える世界的課題>

労働力の補完

- ・ 少子高齢化
- ・ 労働コストの増大

生産性の向上

- ・ コスト抑制の手段
- ・ 需要拡大への対応



<ロボティクス需要を後押しする供給環境>

加速する技術革新

通信

半導体

AI

など

供給拡大に伴う
部品コストの低下

技術開発や供給拡大に向けた
政策支援

供給

労働力の代替手段のみならず、幅広い分野での普及拡大により

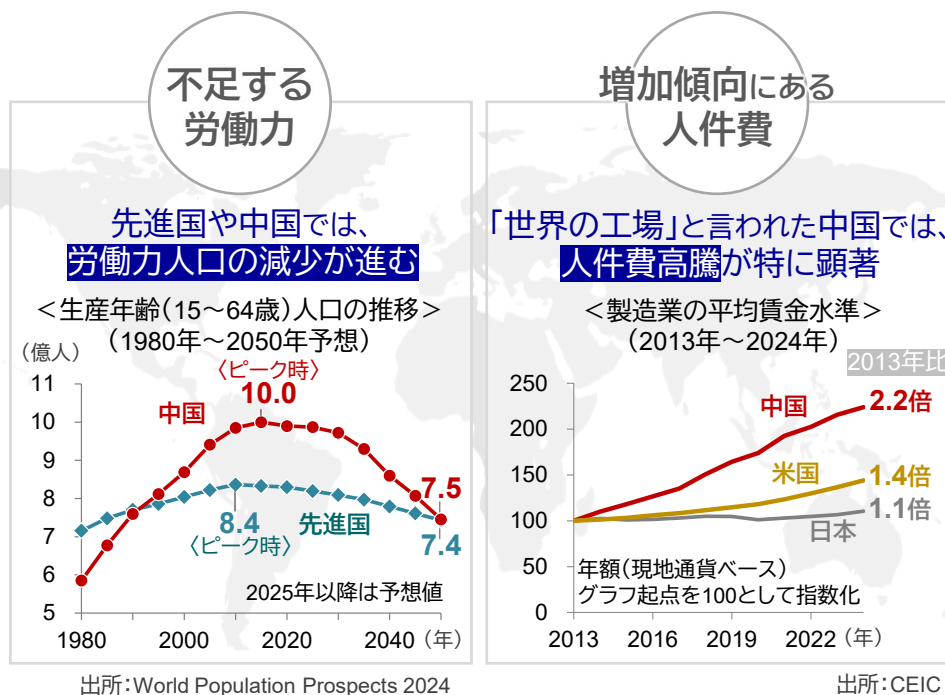
力強い成長が期待されるロボティクス関連企業

※上記はイメージ図です。

尽きることがないロボティクスニーズ

- 労働力不足は、今や世界的な課題として改善が急務となっています。少子高齢化は、先進国のみならず人口大国である中国でも進んでいます。また、賃金水準の高い先進国に加え、新興国での生活水準の向上もあり、人件費の上昇に伴う生産効率の改善が求められています。
- こうした中、ロボティクスは、省人化・省力化による労働力不足への対応のみならず、長時間にわたる高品質な作業が可能となることから、生産効率の面からも幅広い分野での活用が期待されています。

労働力の代替対応は、世界的な課題に



生産性向上を可能にする「省人化・省力化」

＜ロボティクス導入のメリット＞



例えば

物流施設では、さまざまなロボティクス導入により、急増するeコマースに対する省人化対応が進んでいます

左: 必要な棚を特定し、商品棚ごと運ぶロボット
右: コンテナの上を動き回り、必要なものを必要な所へ集約



※写真・イラストはイメージです。

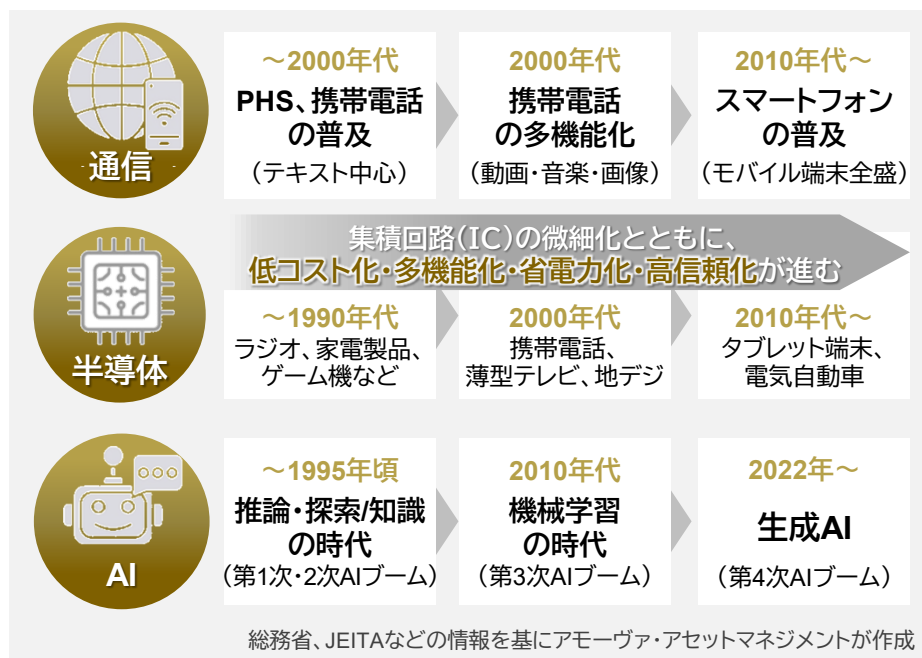
※上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

止まらない技術進化が、ロボティクスの領域を拡げる

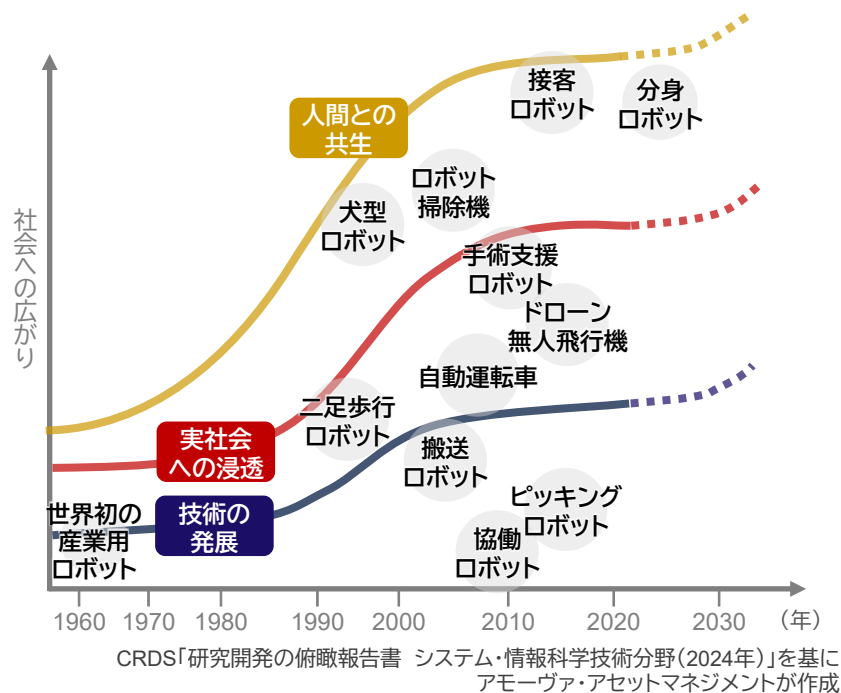
- ロボティクスの活用領域拡大を可能にしているのが、急速に進む技術進化です。ロボティクスを支える通信技術や半導体は、近年、急速な進化を遂げています。また、AIの進化・普及により、蓄積されたデータに基づく予測・判断が可能となり、自動化は大きく進展しました。さらに、生成AIの登場も相俟って、自ら考え、行動する自律化が、さらなる生産性向上に寄与すると期待されます。
- こうした技術革新により、供給拡大とともに部品コストの低下が見込まれるほか、各国が政策支援を進めていることなども、供給加速の後押しにつながると考えられ、ロボティクスの普及拡大は一層の加速が期待されます。

技術進化によって進む、自動化と生産効率向上

<進化する技術例と進化の変遷>



<ロボティクスの研究開発のトレンド(例)>

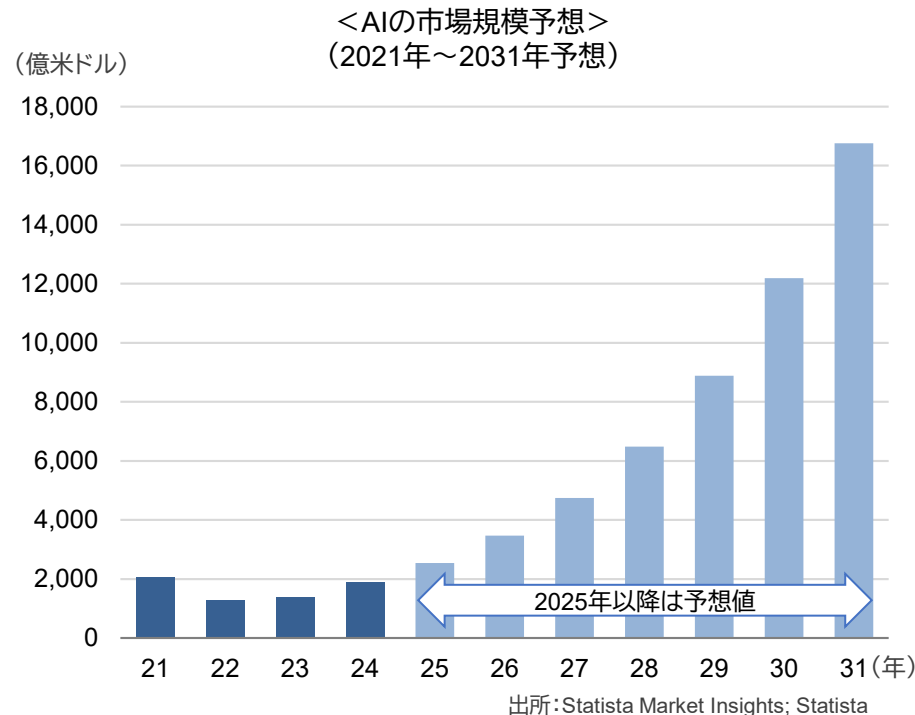


※図はイメージです。

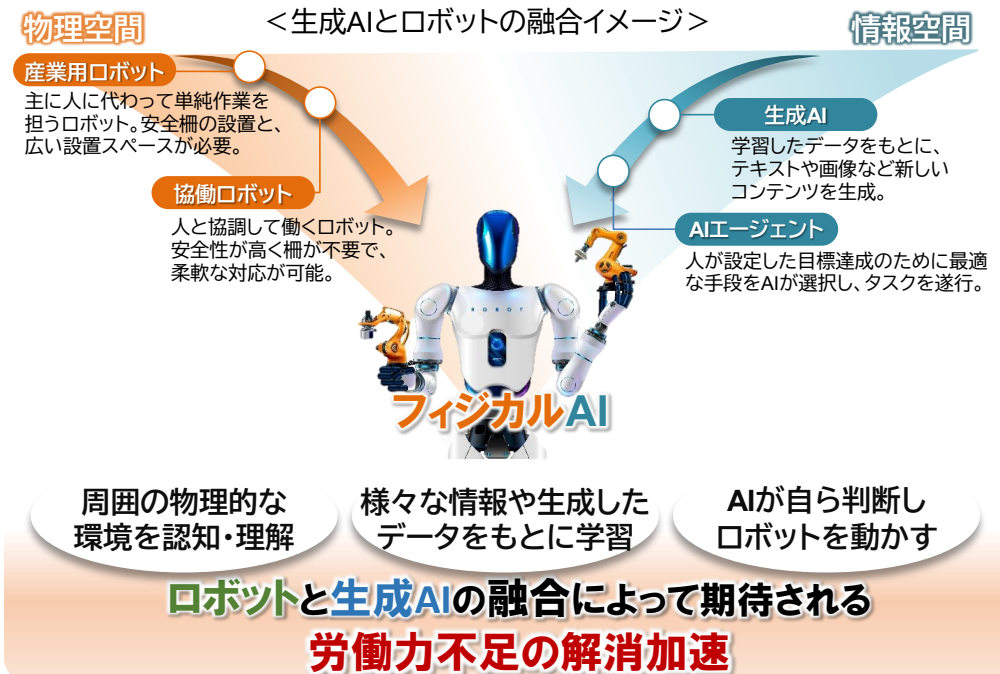
自動化領域を新たな段階へと導くAI

- 第4次産業革命の中核とされるAIは、飛躍的な進歩を遂げています。特に近年は、生成AIが急速な進化を続ける中、他のテクノロジーにも影響を及ぼしながら活用の裾野を拡げており、市場規模の急拡大とともに、ロボットの可能性が拡がることが期待されます。
- 足元では、コンピューター上で自律的に仕事を進める「AIエージェント」の登場によって、業務効率の向上が見込まれることに加え、この先、自動化機器やロボットと生成AIの融合(=「フィジカルAI」)によって、ロボット自身が周囲の環境を理解・学習・判断し、自ら動けるようになることで、これまで自動化が難しかった分野でも活用が進むと期待されています。

AIの活用が自動化領域を拡大させる



生成AIの活用により、ロボットはさらなる進化を遂げる



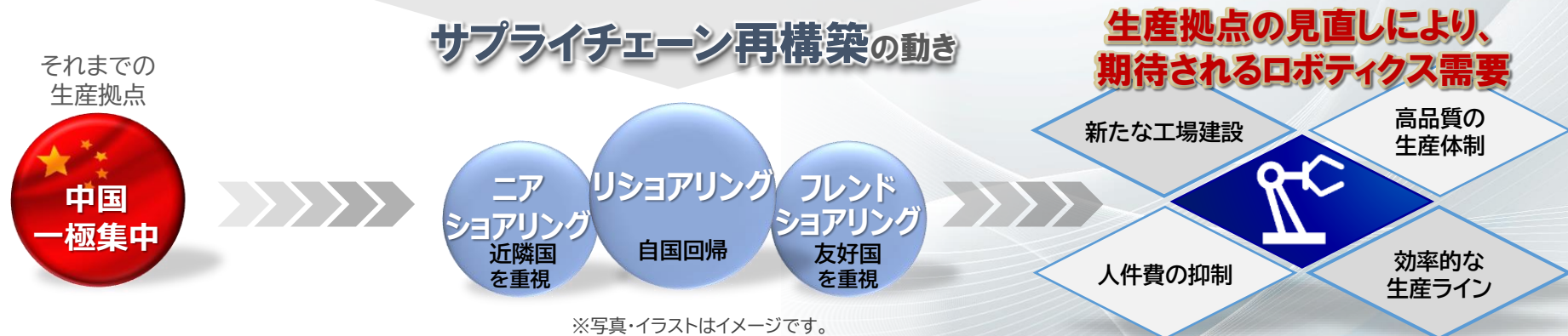
※写真はイメージです。

※上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

近年の環境変化も、ロボティクス拡大の新たなドライバーに

- 近年の環境変化に伴うサプライチェーン再構築の動きも、ロボティクスニーズを後押しする大きなドライバーとなっています。これまで企業は、生産拠点を労働コストの低い新興国などに求め、国境を越えたサプライチェーンを構築してきました。しかし、近年のパンデミックや地政学リスクの高まりによるサプライチェーンの混乱から、企業は生産拠点の早急な見直しを迫られています。
- サプライチェーンの再構築により、新たな設備投資が必要になるとともに、工場の生産ラインなどでは、高水準にある人件費の抑制や効率的な生産体制が求められることから、ロボティクスの活用は不可欠であり、様々な場面で自動化が進むと見込まれます。

高まるディグロバリゼーション(脱グローバル化)の意識

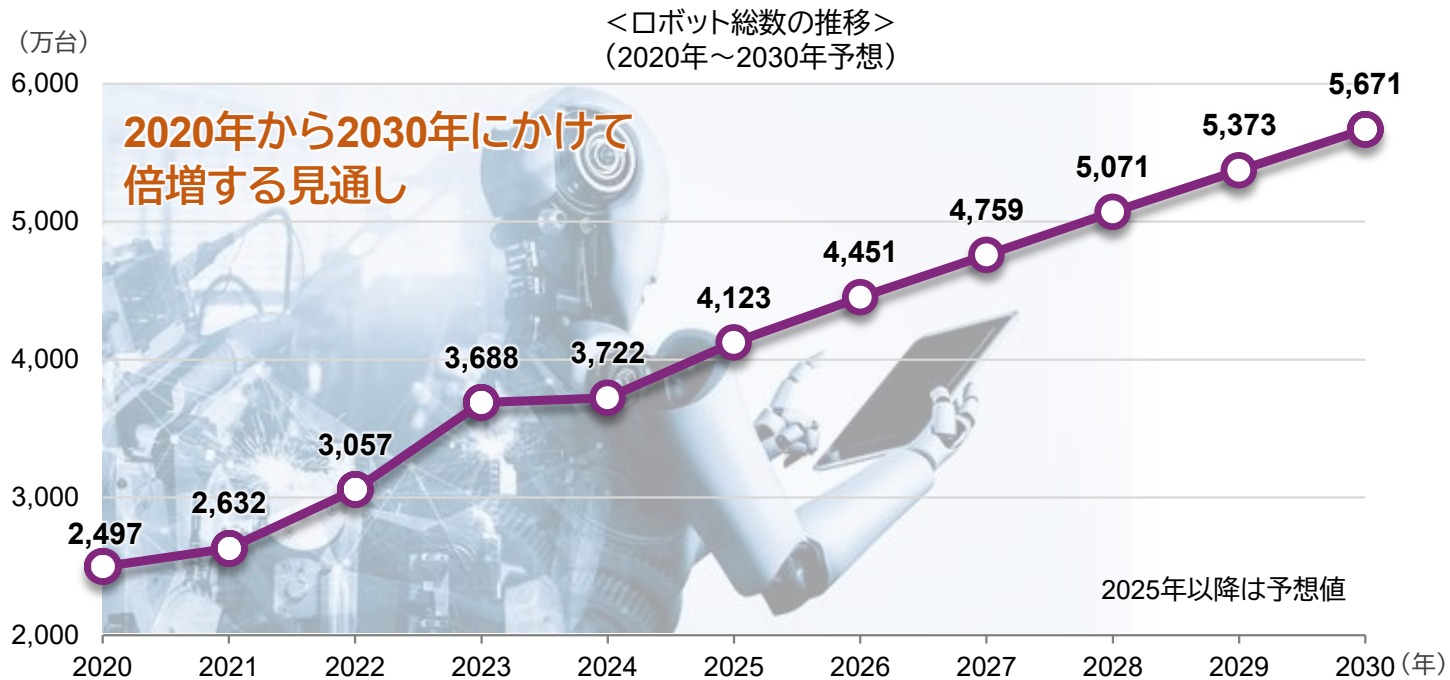


※写真・イラストはイメージです。

拡大が見込まれるロボティクス市場

- ロボティクスは、需要と供給の両面での中長期的な好条件に加え、各国・地域の政策面での後押しもあり、製造業を中心に、引き続き高い成長が見込まれています。
- 特に、主要国で打ち出されている政策からも、労働力不足の解消やデジタル化に向けた取り組みの重要度の高さがうかがえ、ロボティクスは、世界経済を支える基盤になりつつあると考えられます。

今後も継続的なニーズが見込まれるロボット



※写真はイメージです。 出所: Statista Market Insights

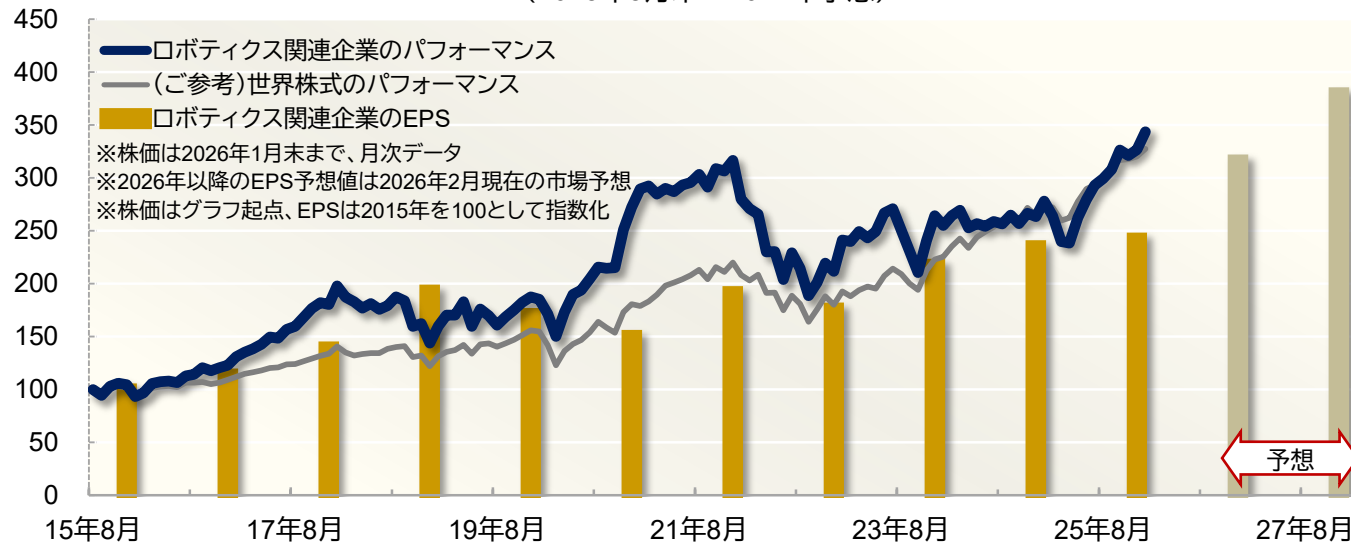
※上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

堅調な株価パフォーマンスと業績見通し

- ロボティクス関連企業の株価パフォーマンスは、ロボティクス活用領域の拡大や各国の政策的な後押しなどを背景に、良好な推移を辿ってきました。
- 今後についても、ロボティクス関連企業は良好な業績が見込まれており、株価パフォーマンスは中長期的に堅調な推移が期待されます。

ロボティクス関連企業の良好な業績見通しとともに、堅調な株価パフォーマンスを期待

＜ロボティクス関連企業の株価(税引後配当込み、米ドルベース)とEPS(1株当たり利益、米ドルベース)の推移＞
(2015年8月末～2027年予想)



ロボティクス関連企業：ROBO Global Robotics and Automation UCITS指数(税引後配当込み、米ドルベース)、世界株式：MSCI World指数(税引後配当込み、米ドルベース)
 ※ROBO Global Robotics and Automation UCITS指数は、ROBO Global社が開発した、世界のロボティクス関連事業を行なう企業の株式で構成された指数です。
 ※上記指数を円換算したものは「1年決算型」、「年2回決算型」の参考指数です。
 ※上記は当ファンドのパフォーマンスを示すものではありません。
 ※当資料に示す各指数の著作権等の知的財産権その他一切の権利は、各指数の算出元または公表元に帰属します。

(信頼できると判断した情報をもとにアモーヴァ・アセットマネジメントが作成)

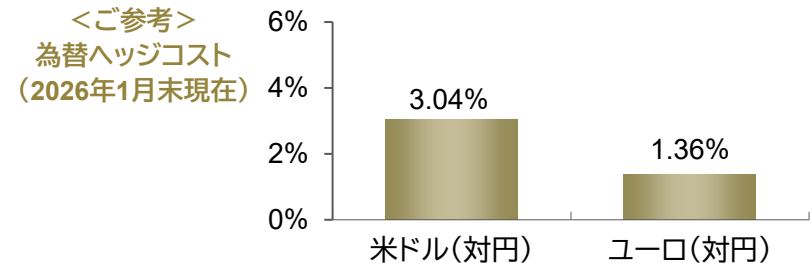
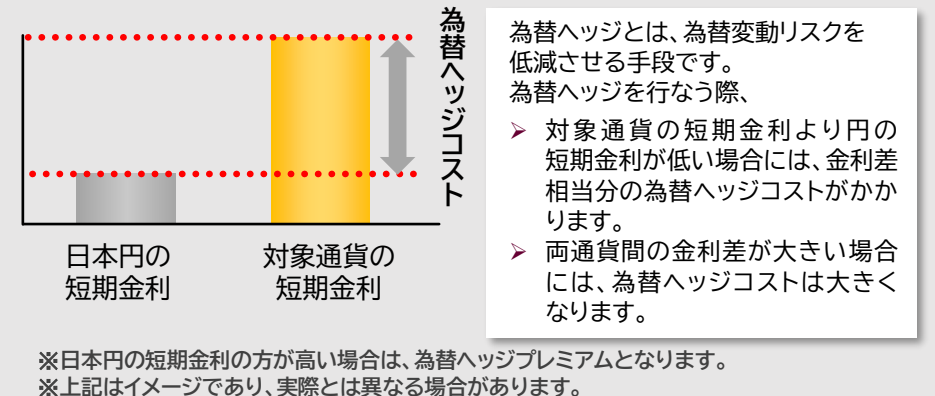
※上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

為替ヘッジについて

- 「1年決算型」、「年2回決算型」の2ファンドは、為替ヘッジを行なわないため、円高時は為替差損が生じますが、円安時には為替差益の獲得が期待できます。一方、「為替ヘッジあり・1年決算型」、「為替ヘッジあり・年2回決算型」の2ファンドは、為替ヘッジを行なうことにより、為替変動リスクの低減を図ります。

	「1年決算型」 「年2回決算型」	「為替ヘッジあり・1年決算型」 「為替ヘッジあり・年2回決算型」
メリット	✓ 円安時には為替差益が期待される。	✓ 円高時に為替差損の低減を図れる*。
デメリット	✓ 円高時には為替差損を被る。	✓ 為替ヘッジコストがかかる。 ✓ 円安時に為替差益を得られない。

* 必ずしも為替変動リスクが完全に排除されるとは限りません。



- ※ 為替ヘッジコストは、3ヵ月物フォワードレートなどを用いて計算した想定値(年率換算)であり、実際の値とは異なります。
 ※ 為替ヘッジコストは、需給要因などによる上乗せ金利を含んでいます。
 ※ 上記は切り捨てにて端数処理しています。

(信頼できると判断した情報をもとにアモーヴァ・アセットマネジメントが作成)

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

為替ヘッジ後の株価パフォーマンス

- ロボティクス関連業界への成長期待などを背景に、為替ヘッジ後のロボティクス関連企業の株価パフォーマンスは、中長期で見ると堅調に推移してきました。

為替ヘッジ後の株価パフォーマンス

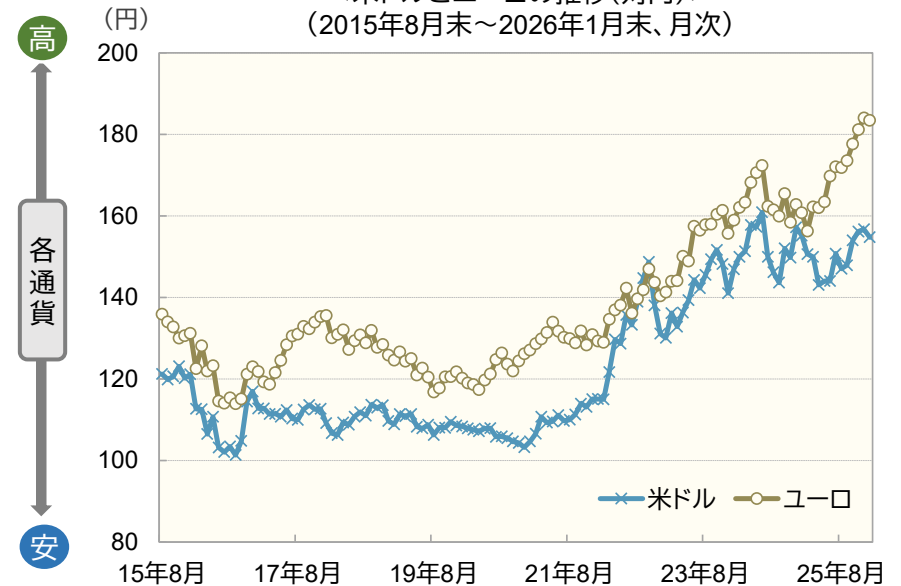
<ロボティクス関連企業の株価(税引後配当込み、円ヘッジベース)の推移>
(2015年8月末～2026年1月末、月次)



ロボティクス関連企業の株価:ROBO Global Robotics and Automation UCITS指数
(税引後配当込み、円ヘッジあり、円ベース)
※上記指数は「為替ヘッジあり・1年決算型」、「為替ヘッジあり・年2回決算型」の参考指数です。
※上記は当ファンドのパフォーマンスを示すものではありません。

ご参考

<米ドルとユーロの推移(対円)>
(2015年8月末～2026年1月末、月次)



(信頼できると判断した情報をもとにアモーヴァ・アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

ファンドの特色

特色 1

世界各国の株式の中から主にロボティクス関連企業の株式に投資を行ないます。

- 今後の成長が期待されるロボティクス関連企業の株式を中心に投資を行なうことにより、中長期的な信託財産の成長をめざします。
- 産業用やサービス用などのロボットを製作する企業のみならず、ロボット関連技術であるAI(人工知能)やセンサーなどの開発に携わる企業も投資対象とします。

特色 2

銘柄選定は、株式のアクティブ運用に注力するラザード社が、徹底した調査に基づき行ないます。

- 株式運用に強みを持つ米国の資産運用会社、ラザード・アセット・マネージメント・エルエルシー(ラザード社)が「グローバル・ロボティクス株式マザーファンド」の運用を行ないます。

特色 3

お客様の運用ニーズに応じて、決算頻度や為替ヘッジの有無が異なる4ファンドからお選びいただけます。

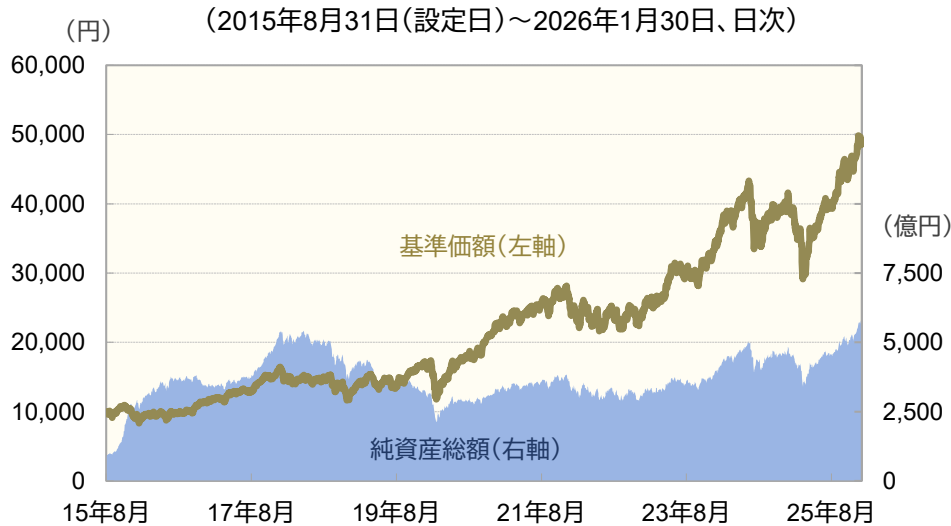
- 外貨建資産への投資にあたっては、原則として為替ヘッジを行わない「1年決算型」、「年2回決算型」と、原則として為替ヘッジを行なう「為替ヘッジあり・1年決算型」、「為替ヘッジあり・年2回決算型」があります。
※ 為替ヘッジによって為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。なお、為替ヘッジを行なう際、対象通貨の短期金利より円の短期金利が低い場合には、為替ヘッジコストがかかります。
- 「1年決算型」、「為替ヘッジあり・1年決算型」は、毎年7月20日(休業日の場合は翌営業日)を決算日とします。
- 「年2回決算型」、「為替ヘッジあり・年2回決算型」は、毎年1月20日、7月20日(休業日の場合は翌営業日)を決算日とします。
基準価額水準が1万円(1万口当たり)を超えている場合には、分配対象額の範囲内で積極的に分配を行ないます。
※ 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

運用実績(1年決算型)/(年2回決算型)

基準価額と純資産総額の推移

1年決算型



<分配金実績(直近5期)>

2021年7月	0円
2022年7月	0円
2023年7月	0円
2024年7月	0円
2025年7月	0円
設定来累計	0円

<基準価額>

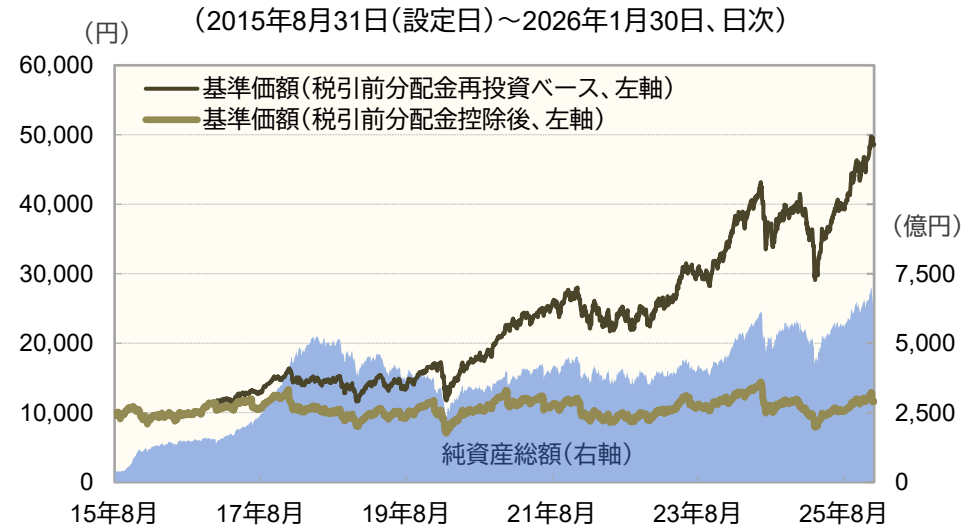
48,672円

<純資産総額>

5,760億円

(2026年1月30日現在)

年2回決算型



<分配金実績(直近5期)>

2024年1月	1,000円
2024年7月	1,500円
2025年1月	1,000円
2025年7月	500円
2026年1月	1,000円
設定来累計	16,550円

<基準価額>
税引前分配金
再投資ベース
48,626円

<基準価額>
税引前分配金
控除後
11,617円

<純資産総額>
6,621億円

(2026年1月30日現在)

※基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後、分配金は税引前の1万口当たりの値です。

※税引前分配金再投資ベースとは、税引前分配金を再投資したものと計算した理論上のものであることにご留意ください。

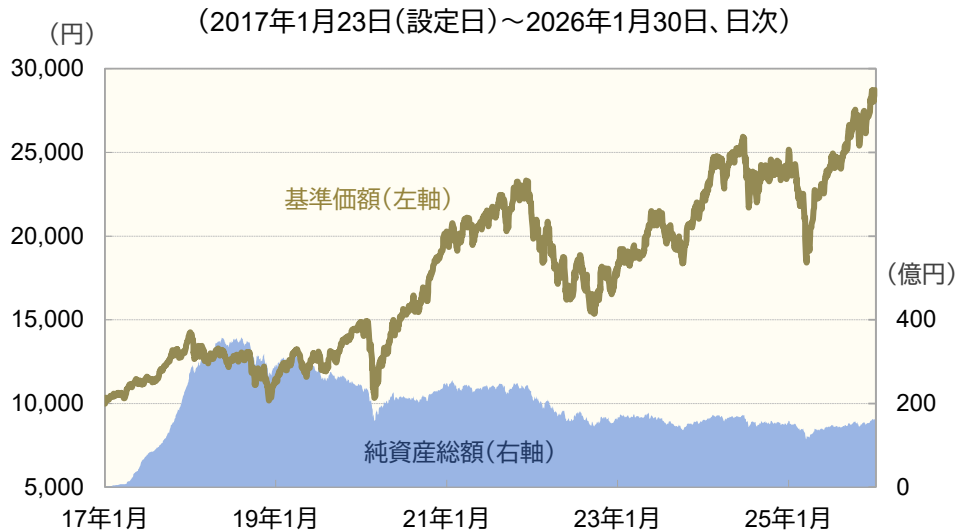
※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

運用実績(為替ヘッジあり・1年決算型) / (為替ヘッジあり・年2回決算型)

基準価額と純資産総額の推移

為替ヘッジあり・1年決算型



<分配金実績(直近5期)>

2021年7月	0円
2022年7月	0円
2023年7月	0円
2024年7月	0円
2025年7月	0円
設定来累計	0円

<基準価額>

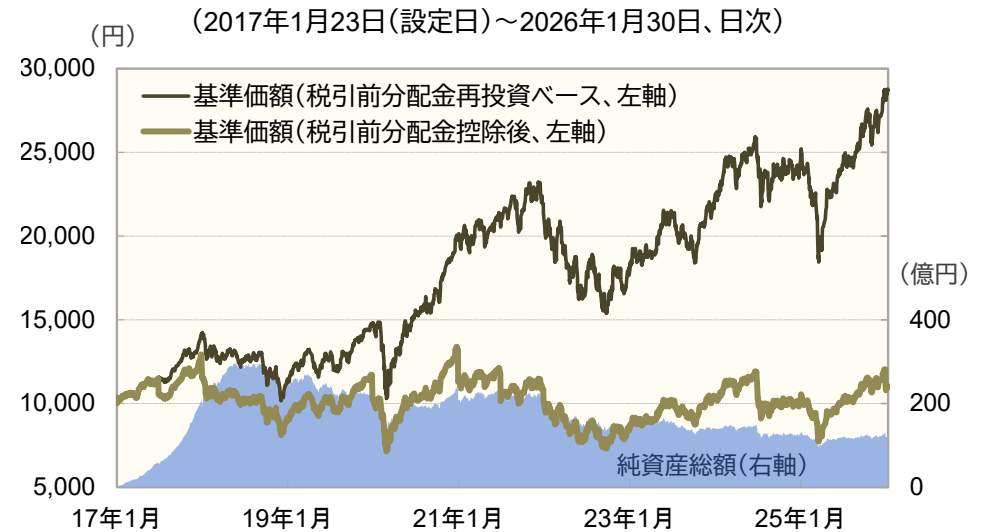
28,623円

<純資産総額>

163億円

(2026年1月30日現在)

為替ヘッジあり・年2回決算型



<分配金実績(直近5期)>

2024年1月	350円
2024年7月	1,000円
2025年1月	0円
2025年7月	0円
2026年1月	1,000円
設定来累計	10,800円

<基準価額>
税引前分配金
再投資ベース
28,679円

<基準価額>
税引前分配金
控除後
11,000円

<純資産総額>
120億円

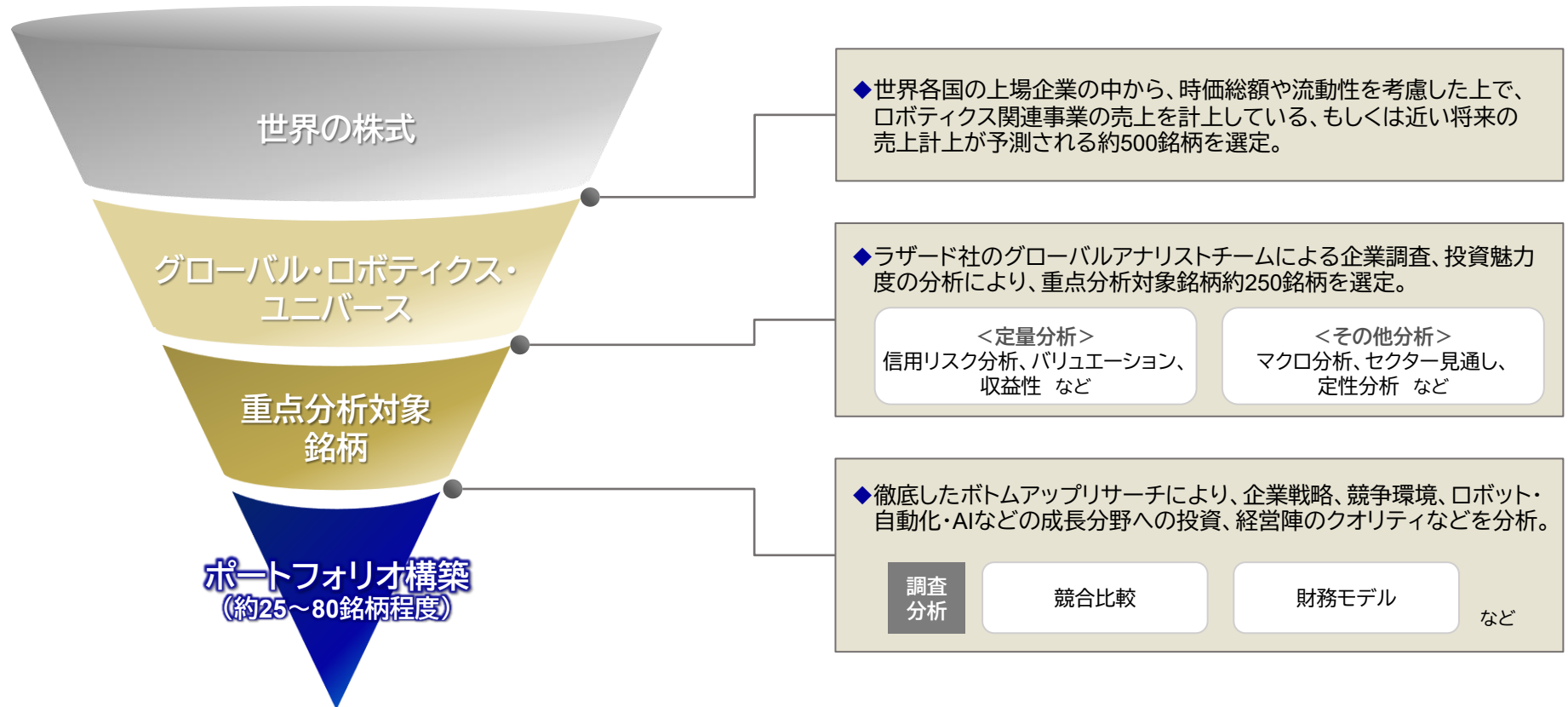
(2026年1月30日現在)

※基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後、分配金は税引前の1万口当たりの値です。
 ※税引前分配金再投資ベースとは、税引前分配金を再投資したものと計算した理論上のものであることにご留意ください。
 ※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

運用プロセス

- 当ファンドの主な投資対象であるマザーファンドの運用を行なうラザード社の運用プロセスは、以下の通りです。



※上記は2025年6月末現在の運用プロセスであり、将来変更となる場合があります。
 ※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行えない場合があります。

ラザード社の銘柄選定のポイント

- ラザード社では、労働力の代替もしくは増強手段として、経済や事業活動の強化が期待される技術や製品などに関連した企業をロボティクス関連銘柄として捉えます。
- 各銘柄においては、収益性や成長性だけでなく、財務基盤やR&D(研究・開発)、競争力などから企業を多角的に分析するとともに、株価バリュエーションなども含めて総合的に判断し、投資判断を行ないます。

LAZARD
ASSET MANAGEMENT

銘柄選定におけるポイント(例)



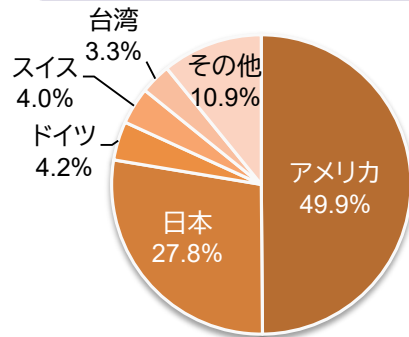
*当ファンドはESGを銘柄選定の主要な要素とするファンドではありません。

※上記は資料作成時点の内容であり、将来変更となる場合があります。

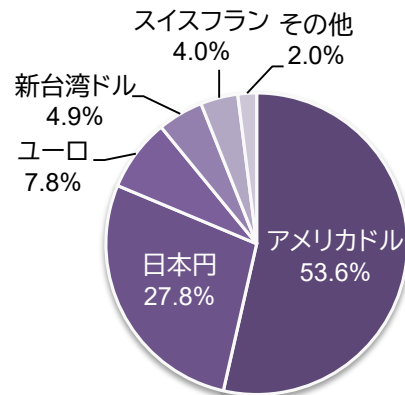
ポートフォリオの概要①(2026年1月末現在)

■ 下記の各数値は、当ファンドの主要投資対象である「グローバル・ロボティクス株式マザーファンド」の状況です。

国別比率



通貨別比率



業種別比率

業種別構成比		詳細(産業別構成比)	
情報技術	49.5%	ソフトウェア・サービス	12.3%
		テクノロジー・ハードウェア	11.4%
		半導体・半導体製造装置	25.8%
資本財・サービス	37.0%	資本財	36.2%
		商業・専門サービス	0.0%
		運輸	0.8%
ヘルスケア	8.3%	ヘルスケア機器・サービス	5.2%
		医薬品・バイオテクノロジー	3.1%
一般消費財・サービス	2.7%	自動車・自動車部品	1.0%
		耐久消費財・アパレル	0.0%
		消費者サービス	0.0%
		一般消費財・サービス流通・小売り	1.7%
コミュニケーション・サービス	2.6%	電気通信サービス	0.0%
		メディア・娯楽	2.6%

※各比率は組入株式時価総額比です。
数値は四捨五入しており合計が100%とならない場合があります。

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

ポートフォリオの概要②(2026年1月末現在)

組入上位10銘柄

	銘柄	国名	業種	比率
1	NVIDIA CORP エヌビディア	アメリカ	情報技術	4.6%
2	SIEMENS AG-REG シーメンス	ドイツ	資本財・サービス	4.2%
3	INTUITIVE SURGICAL INC インテュイティブサージカル	アメリカ	ヘルスケア	4.0%
4	ABB LTD-REG ABB	スイス	資本財・サービス	4.0%
5	ROCKWELL AUTOMATION INC ロックウェル・オートメーション	アメリカ	資本財・サービス	3.9%
6	TAIWAN SEMICONDUCTOR MANUFAC 台湾セミコンダクター(TSMC)	台湾	情報技術	3.3%
7	三菱電機	日本	資本財・サービス	3.2%
8	日立製作所	日本	資本財・サービス	3.1%
9	ダイフク	日本	資本財・サービス	2.8%
10	ALPHABET INC-CL C アルファベット	アメリカ	コミュニケーション・サービス	2.6%

【組入銘柄数】

53銘柄

※マザーファンドの状況で、比率は組入株式時価総額比です。

※上記は、個別銘柄の取引を推奨するものでも、将来の組入を保証するものでもありません。

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

ロボティクス関連企業のご紹介①



エヌビディア

国名 米国

時価
総額 約718.8兆円

業種 情報技術



着目ポイント | AI進展を強烈な追い風に成長する半導体企業

- ◆ 高性能の画像処理半導体(GPU)に強みを持つ世界トップクラスの半導体企業。同社の汎用GPUを用いたAIサーバを配備するAIデータセンターは、世界中で力強く建設が進むと想定される。
- ◆ 今後、AIがAIエージェントやフィジカルAIとして進化し、社会に導入されていく中で、一層の計算能力の提供が求められることから、同社のさらなる成長が期待される。



●円換算レートは、2026年1月末時点(1米ドル=154.78円、1ユーロ=183.43円)。



シーメンス

国名 ドイツ

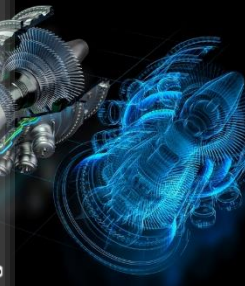
時価
総額 約37.4兆円

業種 資本財・サービス



着目ポイント | デジタルツイン技術でフィジカルAIの社会実装を後押し

- ◆ 産業自動化機器・ソフトウェアと、電力ネットワーク機器の提供を主たる事業とする欧州トップクラスのフィジカルAI関連企業。医療機器事業の切り離しを宣言し、産業向けAI強化の方針を示す。
- ◆ 現実世界と仮想空間をつなげるデジタルツイン技術において、欧州トップクラスを誇る。フィジカルAIの開発や実装に不可欠だけでなく、今後重要性が高まる工場の制御機器でも需要増が期待される。



(信頼できると判断した情報をもとにアモーヴァ・アセットマネジメントが作成)
※写真はイメージです。

※ 上記は2026年1月末現在の「グローバル・ロボティクス株式マザーファンド」の組入上位銘柄の一部を掲載したものであり、当該銘柄について将来の保有を約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。また、当ファンドが組入れる銘柄などのパフォーマンスを示唆するものでもありません。また、過去の株価推移を記載していますが、当該期間における継続保有を示唆するものではありません。

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

ロボティクス関連企業のご紹介②



インテュイティブサージカル

国名 米国
時価総額 約27.6兆円
業種 ヘルスケア



着目ポイント | 普及拡大が期待される手術ロボットのパイオニア

- ◆ 世界シェアトップクラスのロボット手術システムメーカー。同社の外科手術ロボット「Da Vinci」は患者への負担が少ない低侵襲手術を実現。術後の退院早期化により病院の人手不足緩和へ間接的に寄与。
- ◆ 手術ロボットの①導入地域の拡がり(足元では米国がメイン)と、②保険適用される手術(部位)の拡大、③新製品Da Vinci 5への置き換え、という多角的な拡がりに伴う同社売上の拡大が期待される。



●円換算レートは、2026年1月末時点(1米ドル＝154.78円)。



日立製作所

国名 日本
時価総額 約24.5兆円
業種 資本財・サービス



着目ポイント | IT(情報技術)とOT(制御・運用技術)の統合で自動化・自律化を推進

- ◆ 情報技術と現実世界の制御・運用技術の統合が進む中、両技術で世界を代表する企業。
- ◆ 電力網、鉄道網などで用いられるハードウェアの製造・販売だけでなく、それらから創出されるデータを利活用し、フィジカルAI関連ビジネスにつなげていくデジタル・エンジニアリング力が強み。今後のフィジカルAI関連産業の成長から恩恵を受け、さらなる成長が期待される。



(信頼できると判断した情報をもとにアモーヴァ・アセットマネジメントが作成)
※写真はイメージです。

※ 上記は2026年1月末現在の「グローバル・ロボティクス株式マザーファンド」の組入上位銘柄の一部を掲載したものであり、当該銘柄について将来の保有を約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。また、当ファンドが組入れる銘柄などのパフォーマンスを示唆するものでもありません。また、過去の株価推移を記載していますが、当該期間における継続保有を示唆するものではありません。

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

ラザード社のご紹介

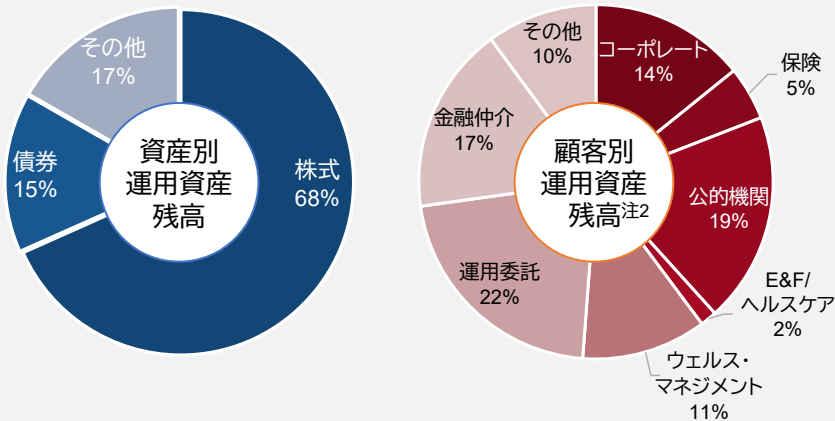
- ラザード・アセット・マネージメント・エルエルシー(ラザード社)は、米国・ニューヨークを拠点とする資産運用会社です。170年超の歴史を持つ投資銀行であるラザード・フレール・アンド・カンパニー・エルエルシーの資産運用部門として1970年に設立されました。
- 株式運用の中でもアクティブ運用に注力しており、機関投資家や公的年金などを主な顧客として、資産運用業務を行なっています。

ラザード社の概要(2025年6月末現在)

LAZARD
ASSET MANAGEMENT

株式運用に注力

<運用資産残高^{注1}> 2,480億米ドル(約35.8兆円)



世界各地を拠点に、充実した調査・運用体制

ラザード社の主な拠点

米国・カナダ・アイルランド・英国・スウェーデン・フランス・ドイツ・イタリア・スイス・スペイン・オランダ・ベルギー・オーストリア・UAE・サウジアラビア・シンガポール・香港・韓国・日本・オーストラリア

各投資プロフェッショナルにより
専門知識を横断的に共有

地域別
プロフェッショナル

資産クラス別
プロフェッショナル

セクター別
プロフェッショナル

注1: 運用資産残高には、ラザード・アセット・マネージメント・エルエルシー(ニューヨーク)およびその子会社に加え、Lazard Frères Gestion、Lazard Frères Banque SA、Edgewater Fundsが含まれます。

換算為替レートは1米ドル=144.445円(2025年6月末現在)。

注2: 金融仲介には、ミューチュアル・ファンド・スポンサー、投資助言、ブローカー・ディーラー、銀行などの顧客が含まれており、またオムニバス口座を通じて運営される資金がプールされた投資スキームへの投資家を含む場合があります。公的機関には、官公庁や公的年金基金、労働組合、米国のタフト・ハートリーなどの顧客が含まれます。E(Endowments: 基金)&F(Foundations: 財団)/ヘルスケアにはファミリー・オフィスなども含まれます。ウェルス・マネジメントには、ラザード・ファミリー・オフィス・パートナーズの顧客に加え、ファミリー・オフィスや富裕層の顧客を主要対象とするLazard Frères Gestionのウェルス・マネジメント・ビジネスが含まれます。運用資産残高は時間の経過に伴ない様々な要因(顧客の移行や戦略の再編など)により変動する可能性があります。ラザード社ではこれらの要因について過去に遡って再評価することはしませんが、将来を見据えてこれらの変更を組み込むよう努めています。

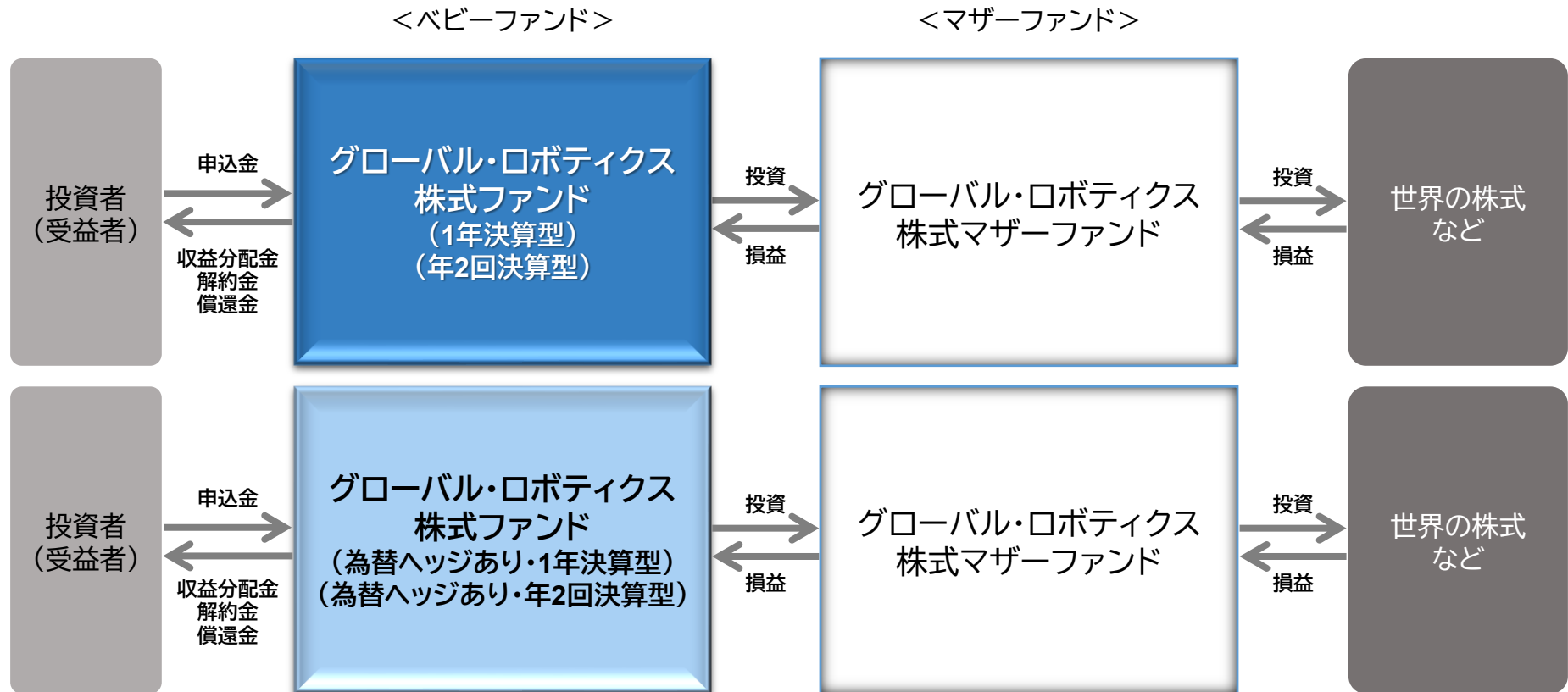
※上記数値は四捨五入しておりますので、合計が100%とならない場合があります。

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

ファンドの仕組み

- 当ファンドは、主に「グローバル・ロボティクス株式マザーファンド」に投資するファミリーファンド方式で運用を行ないます。

* ファミリーファンド方式とは、投資者から投資された資金をまとめてベビーファンドとし、その資金を主としてマザーファンドに投資して、実質的な運用をマザーファンドで行なう仕組みです。



※ 販売会社によっては、いずれかのファンドのみの取扱いとなる場合があります。
また、ファンド間で、スイッチングを行なうことができる場合があります(スイッチング手数料は販売会社によって異なります)。

お申込みに際しての留意事項①

■ リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

主なリスクは以下の通りです。

価格変動リスク

株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。

流動性リスク

市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

信用リスク

投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト(債務不履行)や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

(次頁に続きます)

お申込みに際しての留意事項②

(前頁より続きます)

為替変動リスク

◆「1年決算型」／「年2回決算型」

外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。

◆「為替ヘッジあり・1年決算型」／「為替ヘッジあり・年2回決算型」

外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行ない、為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。なお、為替ヘッジを行なうにあたっては、円の金利が為替ヘッジを行なう通貨の金利より低い場合、この金利差に相当するヘッジコストが発生します。為替および金利の動向によっては、為替ヘッジに伴うヘッジコストが予想以上に発生する場合があります。

有価証券の貸付などにおけるリスク

有価証券の貸付行為などにおいては、取引相手先リスク(取引の相手方の倒産などにより貸付契約が不履行になったり、契約が解除されたりするリスク)を伴ない、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。貸付契約が不履行や契約解除の事態を受けて、貸付契約に基づく担保金を用いて清算手続きを行なう場合においても、買戻しを行なう際に、市場の時価変動などにより調達コストが担保金を上回る可能性もあり、不足金額をファンドが負担することにより、その結果ファンドに損害が発生する恐れがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

■ その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様にご理解を求めていただくことを目的としてアモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

お申込みメモ① (SMBC日興証券・三井住友銀行仲介口座でお申込の場合)

商品分類	追加型投信／内外／株式
購入単位	<分配金再投資コース> (新規購入時)1万円以上1円単位 (追加購入時)1万円以上1円単位 (スイッチングの場合)1万円以上1円単位 (全額スイッチングを行なう場合)1円以上1円単位 <分配金受取りコース> (新規購入時)1万口以上1万口単位 (追加購入時)1万口単位 ※別に定める場合はこの限りではありません。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	<1年決算型>／<年2回決算型> 無期限(2015年8月31日設定) <為替ヘッジあり・1年決算型>／<為替ヘッジあり・年2回決算型> 無期限(2017年1月23日設定)
決算日	<1年決算型>／<為替ヘッジあり・1年決算型> 毎年7月20日(休業日の場合は翌営業日) <年2回決算型>／<為替ヘッジあり・年2回決算型> 毎年1月20日、7月20日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	<1年決算型>／<為替ヘッジあり・1年決算型> 毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 <年2回決算型>／<為替ヘッジあり・年2回決算型> 毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 基準価額水準が1万円(1万口当たり)を超えている場合には、分配対象額の範囲内で積極的に分配を行ないます。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 ※分配金再投資コースの場合、原則として、収益分配金は税金を差し引いた後、無手数料で自動的に再投資されます。 再投資を停止し、分配金のお受取りをご希望される場合はお申し出ください。 分配金のお受取りをご希望される場合、販売会社の定める所定の日よりお支払いいたします。

お申込みメモ② (SMBC日興証券・三井住友銀行仲介口座でお申込の場合)

換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
購入・換金申込不可日	販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込日がニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行休業日に該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。 ※各ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

お申込みメモ①(三井住友銀行の投資信託口座でお申込の場合)

商品分類	追加型投信／内外／株式
購入単位	当初購入の場合：1万円以上1円単位 追加購入の場合：1万円以上1円単位 投信自動積立：1万円以上1千円単位 スイッチングの場合：1円以上1円単位 ※当ファンドの保有残高がある場合または「投信自動積立」をすでに申込の場合を「追加購入」といいます。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	<1年決算型>／<年2回決算型> 無期限(2015年8月31日設定) <為替ヘッジあり・1年決算型>／<為替ヘッジあり・年2回決算型> 無期限(2017年1月23日設定)
決算日	<1年決算型>／<為替ヘッジあり・1年決算型> 毎年7月20日(休業日の場合は翌営業日) <年2回決算型>／<為替ヘッジあり・年2回決算型> 毎年1月20日、7月20日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	<1年決算型>／<為替ヘッジあり・1年決算型> 毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 <年2回決算型>／<為替ヘッジあり・年2回決算型> 毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 基準価額水準が1万円(1万口当たり)を超えている場合には、分配対象額の範囲内で積極的に分配を行ないます。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

お申込みメモ②(三井住友銀行の投資信託口座でお申込の場合)

換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
購入・換金申込不可日	販売会社の営業日であっても、購入・換金の申込日がニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行休業日に該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。 ※各ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

手数料等の概要 (SMBC日興証券・三井住友銀行仲介口座でお申込の場合)

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

< 申込時、換金時にご負担いただく費用 >

購入時手数料	購入価額に、購入口数、購入時手数料率を乗じて得た額です。 購入時手数料率は申込代金／金額に応じて下記のように変わります。 分配金受取りコース：申込代金に応じます。(申込代金は購入価額に購入口数を乗じて得た額です。) 分配金再投資コース：申込金額に応じます。(申込金額は申込代金に購入時手数料(税込)を加えて得た額です。) 1億円未満……………<u>3.3%(税抜3.0%)</u> 1億円以上5億円未満……………<u>1.65%(税抜1.5%)</u> 5億円以上10億円未満……………<u>0.825%(税抜0.75%)</u> 10億円以上……………<u>0.55%(税抜0.5%)</u> ※スイッチングによるご購入の場合の購入時手数料は無料とします。 ※別に定める場合はこの限りではありません。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

< 信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用 >

運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に対し<u>年率1.936%(税抜1.76%)</u>
その他の費用・ 手数料	目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用、運用において利用する 指数の標準使用料などについては、<u>ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額</u>が 信託財産から支払われます。 組入有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、借入金の利息、立替金の利息および貸付有価証券関連報酬(有価証券 の貸付を行なった場合は、信託財産の収益となる品貨料に0.55(税抜0.5)を乗じて得た額)などがその都度、信託財産から支払われます。 ※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

手数料等の概要(三井住友銀行の投資信託口座でお申込の場合)

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	お申込手数料(消費税込)は、購入代金<<購入金額(購入価額[1口当たり]×購入口数)にお申込手数料(消費税込)を加算した額>>に応じて、以下の手数料率を購入金額に乗じて得た額となります。 1億円未満……………<u>3.3%(税抜3.0%)</u> 1億円以上5億円未満………<u>1.65%(税抜1.5%)</u> 5億円以上10億円未満………<u>0.825%(税抜0.75%)</u> 10億円以上……………<u>0.55%(税抜0.5%)</u> ※スイッチングによるお申込の場合のお申込手数料は無料とします。 ※「分配金自動再投資型」において、収益分配金の再投資により取得する口数については、お申込手数料はかかりません。 ※別に定める場合はこの限りではありません。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に対し<u>年率1.936%(税抜1.76%)</u>
その他の費用・ 手数料	目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用、運用において利用する指数の標章使用料などについては、<u>ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額</u>が信託財産から支払われます。 組入有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、借入金の利息、立替金の利息および貸付有価証券関連報酬(有価証券の貸付を行なった場合は、信託財産の収益となる品貸料に0.55(税抜0.5)を乗じて得た額)などがその都度、信託財産から支払われます。 ※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

委託会社、その他関係法人

委託会社:ファンドの運用の指図を行います。	アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社 [ホームページ]www.amova-am.com [コールセンター]0120-25-1404(午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。)
投資顧問会社	ラザード・アセット・マネージメント・エルエルシー
受託会社:ファンドの財産の保管及び管理を行います。	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	[SMBC日興証券でお申込の場合] 販売会社:SMBC日興証券 [三井住友銀行仲介口座でお申込の場合] 委託金融商品取引業者・販売会社:SMBC日興証券 [三井住友銀行の投資信託口座でお申込の場合] 販売会社:三井住友銀行 (販売会社は、ファンドの募集・販売の取扱い等を行います。)

商号・加入協会等

SMBC日興証券

商号等 SMBC日興証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2251号

加入協会 日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

三井住友銀行

商号等 株式会社三井住友銀行 登録金融機関 関東財務局長(登金)第54号

加入協会 日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

アモーヴァ・アセットマネジメント

商号等 アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号

加入協会 一般社団法人資産運用業協会

【投資信託に関するご留意事項】

- 投資信託をご購入の際は、最新の「投資信託説明書(交付目論見書)」および一体となっている「目論見書補完書面」を必ずご覧の上、ご自身でご判断ください。
- 投資信託のご購入、換金にあたっては各種手数料等(購入時手数料、換金時手数料、信託財産留保額等)が必要です。また、これらの手数料等とは別に信託報酬と監査費用、有価証券売買手数料等その他費用等を日々、信託財産を通じてご負担いただきます。お客さまにご負担いただく手数料・費用等はこれらを足し合わせた金額となります。
- 投資信託のご購入、換金にあたって円貨から外貨または外貨から円貨へ転換の際は、為替手数料が上記の各種手数料等とは別にかかります。購入時と換金時の適用為替相場には差があるため、為替相場に変動がない場合でも、換金時の円貨額が購入時の円貨額を下回る場合があります。
- これらの手数料・費用等は各投資信託およびその通貨・購入金額等により異なるため、具体的な金額・計算方法を記載することができません。各投資信託の手数料・費用等の詳細は、目論見書・販売用資料等でご確認ください。
- 投資信託は、元本保証および利回り保証のいずれもありません。
- 投資信託は国内外の株式や債券等へ投資しているため、投資対象の価格の変動、外国為替相場の変動等により投資した資産の価値が投資元本を割り込むリスク等があります。これらのリスクは、投資信託をご購入のお客さまが負うことになります。

以下、お申込される該当口座のご留意事項をご確認ください。

【SMBC日興証券でのお申込にあたってのご留意事項】

- 「投資信託説明書(交付目論見書)」および「目論見書補完書面」はSMBC日興証券の店頭等にご用意しています。

【三井住友銀行仲介口座でのお申込にあたってのご留意事項】

- 「投資信託説明書(交付目論見書)」および「目論見書補完書面」は三井住友銀行本支店等にご用意しています。
- 三井住友銀行が金融商品仲介で取り扱う商品のご購入にあたっては、委託元証券会社に「証券総合口座」および「外国証券取引口座」を開設いただく必要がありますので、三井住友銀行がお取り次ぎいたします。
- 三井住友銀行が登録金融機関として証券会社の委託により金融商品仲介で取り扱う投資信託は、証券会社に開設された口座でお預かりするため投資者保護基金の対象となります。
- 販売会社はSMBC日興証券です。三井住友銀行はSMBC日興証券の委託によりご購入・ご換金のお申込について取り扱いを行います。投資信託の設定・運用は運用会社が行います。

【三井住友銀行の投資信託口座でのお申込にあたってのご留意事項】

- 「投資信託説明書(交付目論見書)」および「目論見書補完書面」は三井住友銀行本支店等にご用意しています。
- 投資信託は預金ではありません。
- 投資信託は預金保険の対象ではありません。預金保険については窓口までお問い合わせください。
- 三井住友銀行で取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 三井住友銀行は販売会社であり、投資信託の設定・運用は運用会社が行います。



アセットマネジメント(am)を
ムーヴ(move)する